



もいまち

議会だより



写真/「そろそろ食べられる？」～大洞院 餅焼き～

《主な内容》

12月定例会で決まったこと	2～4
特集～浜岡原発の「いま」を視る～	4
一般質問：「空き家」の有効活用 他	5～6
特集～議会報告会～	7
長野県で町営バス・太陽光を学ぶ	8～9

働きやすいまちへ

森町議会は、12月定例会を5日から18日までの会期で開催しました。

提案された平成26年度補正予算、条例の新規制定・改正など12議案を審議し、すべて可決しました。

一般質問には4人が登壇し、空き家の有効活用、道路標示等の整備、平成27年度当初予算、小規模企業振興基本法施行への対応などについての質問をしました。(5〜6ページに掲載)

補正予算

一般会計など、5会計の補正予算を審議しました。
主な内容をお知らせします。

一般会計 追加 9175万7千円
総額 73億3643万9千円

一般会計補正予算(第8号)

放課後児童クラブの拡大に伴う、クラブ室の整備に1316万5千円

子ども医療費扶助費、及び未熟児養育医療費扶助費へ追加304万1千円

台風18号の影響を受けた、農業用水路や農道路肩等の復旧費用に700万円、道路・河川の復旧費用に5300万円

農地台帳システムの改修等に346万5千円



台風18号により崩れた道路(橋地内)

町道大久保峯山線の測量設計業務委託料として184万4千円

天方城趾の観光案内看板の設置工費として100万2千円

【賛成討論】

住民の必要に添えるべく、国の法改正や制度を活用して必要な事業を行うための予算である。(太田議員)

災害復旧に対して迅速に対応した、緊急性と必要性に応じたものであり、また、女性の就労支援・子育て支援の充実を図る、有意義な予算である。(伊藤議員)

(伊藤議員)

条例

森町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例 **【制定】**

森町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例 **【制定】**

森町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例 **【制定】**

森町放課後児童クラブの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 **【一部改正】**

「子ども・子育て関連3法」に基づく「子ども・子育て支援新制度」に関する設備の基準等を定めるため、条例の制定・一部改正を行いました。

(左写真)は子ども・子育て支援新制度のシンボルマーク)



内閣府ホームページより

預かり保育で

森町立幼稚園預かり保育料徴収条例

【制定】

4月から森幼稚園・園田幼稚園で実施される「預かり保育」について、その保育料を次のとおり定めました。

- ・年間預かり・・・月額5,000円
- ・一時預かり・・・日額 500円
- ・長期休業中(夏休み等)の預かり・・・日額1,000円

【賛成討論】

県内の他市町と比べても安価な料金であり、人口対策にもつながるものであると期待する。

(中根議員)

一般議案

児童福祉法の一部改正に伴い、東遠学園組合規約の変更を行いました。

人事

人権擁護委員

3月31日に任期満了となる岡野知洋氏の後任として、白畑安信氏の推薦に同意しました。



幼稚園の預かり保育(イメージ図)

11月臨時会

11月臨時会を11月28日に開催しました。専決処分や条例の一部改正、補正予算や土地の処分についてを審議しました。

専決処分

台風18号で発生した災害に対応するための補正予算、及び衆議院議員総選挙に伴う、二つの補正予算の専決処分について承認しました。

主な内容をお知らせします。

町道等の路面整備、崩土除去、倒木処理等57箇所の経費に1870万円

農道の崩土除去、農業用水路の浚渫等7箇所に計263万円

既設治山施設からの土砂流出に伴う浚渫8箇所に297万円

衆議院議員総選挙費用に809万7千円

補正予算

平成26年人事院勧告に基づき、給料、手当等の改正等に伴い、一般会計など4会計の補正予算を審議しました。

一般会計 追加 1003万7千円

総額 72億4468万2千円

条例

平成26年人事院勧告に基づき、給料、手当等の改正にかかる条例の一部改正を行いました。

一般議案

旧中央体育館及びテニスコート敷地等の土地の売却について審議し、議員全員の賛成により可決しました。

12月定例会の審議結果

	議案名	結果	備考
人事	人権擁護委員候補者の推薦	推薦	全員賛成
条例	森町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例	原案可決	全員賛成
	森町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例	原案可決	全員賛成
	森町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例	原案可決	全員賛成
	森町放課後児童クラブの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成
	森町立幼稚園預かり保育料徴収条例	原案可決	全員賛成
補正予算	平成26年度森町一般会計補正予算(第8号)	原案可決	全員賛成
	平成26年度森町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決	全員賛成
	平成26年度森町介護保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決	全員賛成
	平成26年度森町水道事業会計補正予算(第3号)	原案可決	全員賛成
	平成26年度森町病院事業会計補正予算(第4号)	原案可決	全員賛成
一般	東遠学園組合規約の変更について	原案可決	全員賛成

11月臨時会の審議結果

	議案名	結果	備考
専決処分	専決処分の報告承認を求めることについて	承認	全員賛成
	専決処分の報告承認を求めることについて	承認	全員賛成
条例	森町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	反対 鈴木議員
	森町特別職の職員で常勤のもの給料等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成
	森町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成
	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成
補正予算	森町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成
補正予算	平成26年度森町一般会計補正予算(第7号)	原案可決	反対 鈴木議員
	平成26年度森町介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決	全員賛成
	平成26年度森町水道事業会計補正予算(第2号)	原案可決	全員賛成
	平成26年度森町病院事業会計補正予算(第3号)	原案可決	全員賛成
一般	土地処分について	原案可決	全員賛成

議員視察

浜岡原発の「いま」を視る

平成27年1月22日、福島第1原発の事故以来、4回目の浜岡原子力発電所の視察を行いました。浜岡原発では、地震対策及び津波対策として、大規模な安全性向上対策が進んでいました。前回の視察は平成25年5月でしたが、その時に比べ一段と対策が充実しておりました。

特に防波壁については、18メートルから22メートルにかさ上げさ



れ、壁面にはコンクリート壁を貼り付ける工事も進められています。

各種の津波対策を始め、非常時の対策として、海抜40メートル地点への発電機の設置、炉心への注水機能強化策として、河川等から発電所へ大量に送水するための設備も充実していました。

また、使用済燃料乾式貯蔵施設の建設計画を視察しました。今後、議会として注視していきます。



伊藤 和子

「空き家バンク」で 町内外へ情報発信を

問 森町では防犯・防災・衛生・景観上の観点から問題となっている空家が増加し、早急な対応が課題となっている。

また、有効活用できる空家対策として、「*空き家バンク」の創設等、森町独自の創意工夫が必要であると思いが、町長の考えを伺う。

町長 「*空家等対策の推進に関する特別措置法」の施行によって、倒壊・保安・衛生上の問題がある空家に対して、自治体の強制力が担保され、対策を講ずることも可能となる。

「空き家バンク」については、バンクとして創設しても利用可能な家が少なく、現時点では設置はなじまない。対策行為も効果が薄いと考えている。

今後は、移住・定住を推進するという観点と、防犯・防災・衛生・景観上の観点から議論していく。

※「空き家バンク」

賃貸・売却を希望する空家の情報を、利用したい人に紹介する制度

※「空家等対策の推進に関する特別措置法」

適正に管理されていない空家等の情報収集や行政代執行が自治体で可能となることや、空地の有効活用を目的とするもの



有効活用が期待される空家（イメージ写真）

町政を問う ～一般質問～



小沢 一男

道路標示の整備を

問 横断歩道や停止線、路側帯の白線、道路上の消火栓の黄色の囲い枠等に欠落が目立つが、整備の要請は行っているか。

町長 規制表示については、地元の要望を受け、現地を確認し、袋井警察署へ副申している。

消火栓については、消防署の協力を頂き、黄色の囲い枠の欠落を確認し、随時修繕をお願いしている。

災害に強いまちを

問 町が管理する河川について、川幅も狭く倒木、土砂の堆積があり、放置すれば増水時に河川氾濫の危険もあり、大災害の原因となる。整備計画はあるか。

町長 特に住居や施設がある区間について、改修・整備を計画的に進めている。

問 県管理の太田川水系7河川について、土砂や雑草などによる堆積が



横断歩道 白線のかすれ（仲横町）

ひどくなっている。土砂浚渫工事・改修整備の要請は。

町長 町では河川パトロールを実施し、必要な整備箇所を県土木事務所へ報告し、対応していただいている。また、地元の要望が町に提出されれば、随時町の進達書を添えて県土木事務所へ提出し、整備をお願いしている。

その他の質問

・「土砂災害防止法」改正に伴う土砂災害対策について



整備の延長が待たれる、都市計画道路・新田赤松線



太田 康雄

新年度予算への取組は

問 新年度予算の規模と主要な事業について、現段階での町長の考えを伺う。

町長 次世代につながる整備、安心安全の基盤整備、社会保障・税番号制度(マイナンバー)の導入対応、さらには、合併60周年関連事業やマニフェスト最終年度としての取組から、平成27年度当初予算の総額は、本年度当初予算を相当程度超える70億79億円の間になるかと思う。

主要事業は、拠点防災倉庫整備、

行政無線デジタル化、森地区まちづくり事業計画による町道改築、内陸フロンティア推進、放課後児童クラブの小学校全学年への拡充、天方小学校放課後子ども教室開設、幼稚園預かり保育実施、浄化センター増設設計等の公共下水道事業への繰り出し、通学路安全対策等である。

合併60周年記念事業は、庁内に検討委員会、及び作業部会を設け、現在町民からの提案の取りまとめを行っている段階である。

問 遠州の小京都らしい町並みといった視点も踏まえながら、都市計画道路新田赤松線を中心とした森地区の道路整備、まちづくりを進めていただきたいが、町長の考えは。

町長 次なる計画をどう構築していくかは、これからデータ等を元に考えるべき問題なので、現段階では具体的にはできない。

町政を問う ～一般質問～



西田 彰

住宅リフォーム助成制度 創設の考えは

問 アベノミクスによる経済政策が、どこまで国民を潤すことができるか疑問である。再増税が延期されたとはいえ、消費税10%への不安はさらに消費を落ち込ませると考える。

耐震補強の実績がなかなか伸びない中、必要なのは仕事づくりと消費拡大であり、耐震補強促進であると考えます。

住宅改修を一部公費で負担し、商券を発行する。地元で買入物をしただけでなく、消費行動を促し、ひいては税収アップにつながる。こうした制度は全国628自治体に広がっており、近隣市町では掛川市が実施している。補助は1529万円、経済波及効果は5億円との結果が出ている。

取組についての考えを伺う。

町長 今の経済状況は消費税増税前に戻った、駆け込み特需が終わった状況と考える。

森町においては、耐震診断と併せ、「建築物等耐震化促進事業」を実施し、木造住宅の耐震補強を行う者に

対し助成を行っている。耐震工事をする場合、リフォームを兼ねて行う場合が多く、リフォームの促進にもつながっていると考える。

仕事づくりについては、現在家具の固定は1割にも達していないので、大工の皆様には仕事の確保の意味でも、促進に寄与していただきたい。

リフォーム助成制度を実施となると国の助成制度はなく、町単独でやらなければならない。リフォームよりもまずは耐震補強をやっていたら、お金を使うべきと考えられている。

また、経済効果があるというだけでなく、何のためにやるのか、どのような視点で施策を打つのが必要となる。制度創設は考えていない。

その他の質問

・小規模企業振興基本法施行について

議会報告会

開かれた議会を目指して

森町議会は、昨年11月18日、森町文化会館にて議会報告会を開催しました。36人の住民の方にお集まりいただいた中で、25年度決算の報告や、前回のご意見・ご質問に対する回答をいたしました。

ここでは、本報告会で寄せられたご意見・ご質問について掲載します。

大洞院川を 2級河川に

Q 台風18号の上陸により、橋地内の大洞院川が大きな被害を受けた。お金もかかるようなので、二級河川に昇格してもらいたい。

A 二級河川になると県の河川管理になる。意見をよく考慮して町とも十分協議し、検討をしていきます。

耐震性の 根拠とは

Q 公共下水道の回答で、「耐震性のある資材」を使用しているということであったが、どのような観点・根拠から言っているのか。

A 地域によっては大きな被害を受けることもあるが、布設をした下水道管がすべて使用できないような状況になるとは考えられない、という当局の回答を基にしている。現在資材として使用されている「リップ付硬質塩化ビニル管」は、従来の資材に比べ2倍の強度を持つと言われている。基礎材に砕石基礎が適用でき、液状化現象による管の浮き上がり防止ができる。

(担当課の見解)

町のバスを 循環方式に

Q 今の町営バスのデマンド方式は、町の交通弱者の声が届いていない。

議員発議という形で町に意見し、循環バス方式に変更してほしい。

A 11月に県外視察を行った。町民の皆さんの意見や協力も頂きながら、町に強く働きかけた。町営バスと患者バス、民間バスの三つの整合性をどのように取っていくかが一番の課題だと思っている。



河川周辺の キャンプ規制を

Q 3年前に太田川でのキャンプの規制について、県土木事務所要望書を出したが、回答がなかった。

今年も外国人が昼から深夜まで音楽をかけていて、警察に電話したが、規制が無く注意できないと言われた。

A 話としては伺っている。

騒音対策については議会内部で検証し、協議を重ねた上で対応を検討したい。



先進地に学ぶ

11月13・14日にかけて、町内自主運行バスに取り組む長野県箕輪町、持続可能な地域づくりの先進地長野県飯田市で視察を行いました。

第一常任委員会

自主運行バスの取組を視察

長野県上伊那郡箕輪町

町民要望や議会報告会において聞かれる意見の一つに、公共交通手段としての、町内自主運行(巡回)バスの充実があります。

森町では大河内線、吉川線の2路線において町営バスの運行が行われており、これに病院患者バスと秋葉バスサービスの民間路線が、町民の足としての役割を果たしています。

しかし、自主運行バス2路線は、民間路線の撤退に伴い、地域の交通弱者対策として見直しをしながら、基本は変えずに現在に至っており、巡回バスと言えるものではありません。

今回、箕輪町の自主運行巡回バス「みのちゃんバス」の取組を視察いたしました。箕輪町は長野県飯田市の北50kmに位置し、人口2万5200人、面積86km²、役場を中心にほぼ東西南北同一距離、山林は34%で、河岸段丘をなし



「みのちゃんバス」の乗車視察

ている町です。

民間業者の撤退を引き金に設立し、自主運行として伊那バスに委託、当初は2コースのみでしたが、検討委員会で改善を重ね、現在の4コースとなり、今日に至っているとのこと。

運賃体系は大人200円、小中学生は100円、平成23年度から町民の75歳以上、障がい者、長寿クラブ加入者

等は無料としており、福祉サービスの要素が強く出されていると考えます。

特徴としては、中学生の通学時間帯を充実させたこと、停留所の改善、ノンステップバスの導入で高齢者にも優しい形状としていること等です。

みのちゃんバスに乗って

みのちゃんバスは役場を起点に巡回していることから、全員で試乗をしました。運転手さんが「こんなにお客さんが多いのは初めて」と、緊張気味だったのが印象に残っています。

乗車されていた高齢のご婦人は「バスがあり助かっている、以前より停留所が遠くなったのとベンチがなくなったのは不便」と職員に注文していました。担当が実際バスに乗車し声を聴くことの必要性を感じました。順路にはかなり狭い道路もあり、驚きました。

1時間の乗車でしたが、地域の足としての役割を果たしていると感じました。高齢化が進み、森町でも町営バス運行のあり方を検討する時期が来ていると思います。

農家の所得向上を目指して

箕輪町では、形や大きさの違いにより出荷できなかった、いわゆる「規格外品」等を農家レストランで活用することにより、農家の所得が向上しました。

今後の森町の農業・農村対策として、積極的に推進していくべき取組であると感じました。



農家レストラン「にこりこキッチン たべりこ」

第二常任委員会

飯田市の農業

飯田市は、気温較差が大きく日照時間が長い気象、山間地や傾斜地が多い農地、固有の食文化などの特徴から、狭い農地でも収益を確保できる農業経営を目指しています。

これまでの産地は、規格のそろった農産物を市場に安定供給する生産基地であり、行政も生産施設整備に特化して支援しました。

しかし、農家数、経営耕地面積、農業産出額は年々減少しており、今後は農家・生産団体・民間事業者・行政が連携し、産地自らがマーケティング基地として生き残ることを目指しています。

都市と農村のパートナーシップ 「ワーキングホリデー」

飯田市型ワーキングホリデーは、都市住民は農家に滞在しながら、農林業作業や祭り等伝統行事をサポートして、農家体験や交流を対価とし、農家は繁忙期に無償で手伝ってくれる人手が滞在費の対価となります。



「ワーキングホリデー」が都市と農村をつなぐ

客としてではなく、家族同様に滞在してもらおうおもてなし不要の対等な関係(パートナーシップに基づく協働体)づくりのため、宿泊代・体験代、労働賃金という金銭の授受は発生しません。

これまでの事業の効果は、定住者5組の夫婦と男女2人、新規就農者15組の夫婦と11人の男性、また5人の男女が嫁や婿となり、後継者不足解消の希望となっています。

「分権型エネルギー自治」を 目指す飯田市の環境政策

飯田市の太陽光市民共同発電事業は、市民ファンドによる会社が事業主体となっています。一つは市の施設の屋根に太陽光パネルを無償設置し、施設は余剰電力を売電して収入を得、会社は出資者に利益配分金を支払うものです。

もう一つは、会社が飯田市の補助金と地元金融機関の融資により一般住宅に無償で太陽光パネルを設置し、住民は売電により9年間定額を会社に支払うことで10年後にパネルを譲渡されるものです。

その他にも、中部電力との協働によるメガソーラー発電所や木質バイオマスエネルギー活用事業、新たな環境ビジネスの創出として地元企業によるLED防犯灯の開発、販売、小水力発電機を開発し手軽に小規模分散型発電を可能にする取組があります。

飯田市は、再生エネルギーを生み出す資源は地域の人や土地と密接な関わりを持つものであるから、事業から得られる収益を住民自治に活用する「エネルギー自治」という考えで条例を制定し、市民を中心とする多様な主体が取り組む再生エネルギーによる地域づ



太陽光発電所 メガソーラーいいた

くり事業を公民協働事業として支援しています。

飯田市での視察研修は、地域の歴史文化を知り現状を把握し、将来に向けてどのようなまちづくり、地域づくりをしていくのかを考えた上でいろいろな面から取り組んでいる事業であり、いずれも「持続可能な地域づくりの取組」でした。

これから森町でも、持続可能な地域づくりを進めなければなりません。その必要性を強く感じ、そしてヒントを得た有意義な所管事務調査でした。

みんなのこえ

読み聞かせボランティア

おはなしぐらんこ

私たち「おはなしぐらんこ」は、遠江総合高校での朝読書、図書館での幼稚園児への読み聞かせ、児童館での読み聞かせ、児童館行事や七夕会、クリスマス会への参加、夏休み中の放課後児童クラブへの出前上演など、いろんなところで活動しています。

上演中は子どもたちの元気な声援に後押しされ、熱が入ったアドリブ演技も連発し、いつの間にか舞台と客席がひとつになっています。

昨年4月には、文部科学大臣賞を頂きました。これからも受け継がれてきた歴史を守り、新しいことに挑戦し、目を輝かせて見聞きしてくれる子どもたちと一緒に成長していきたいと思えます。皆様の暖かいご支援に、心より感謝いたします。



会員数 18名

代表

堀内 澄代
村松 ゆかり

代表
村松 ゆかり

議会を聴きにきませんか

前回の議会では、のべ34人の方が、議会へ足を運んでくださいました。めんどろな手続きは必要ありません。是非、お越しく下さい。

- 定員数28名
- お問い合わせ先…議会事務局
電話 0538-85-6329

<3月定例会の予定>

3月 2日(月) 本会議 初日
3月 6日(金) 本会議 2日目
3月10日(火) 常任委員会
3月11日(水) 〃
3月12日(木) 〃
3月23日(月) 本会議 最終日

※会議の開始時間は午前9時30分です。
※日程が変更される場合もありますのでご了承ください。

あの 一般質問

どうなっただいやあ～

【平成25年12月定例会】

Q 幼稚園の預かり保育については、保護者のニーズも年々高まっている。子育て支援として実施していただきたいと思うが、考えを問う。

A 今年4月から、町内2園で「預かり保育」を実施することになりました。安心して子どもを預けられる場所を求める声の高まりを受け、保護者の就労支援と子育て支援につなげるためのものです。

(預かり保育の料金等については、3ページに詳しく掲載しておりますので、あわせてご覧ください。)

ひとこと

新東名が開通して、3年が経とうとしている。森町は二つのインターを所有し、内陸フロンティア構想も進展して、「お達者度」は2年連続上位を占めた。

まさしく「時は今」森町が大きく飛躍できる絶好のチャンスであり、「好機を逃すべからず」

今の森町があるのは、先人の努力の結果である。今年迎える合併60周年で、今一度森町の歴史を振り返ってみたい。

ノーベル賞受賞者の天野教授は、学問は「一人のために」と言っていた。今学んでいるすべての事が、必ず森町の将来の礎となっていく。そう信じて今後も精進していきたい。 K・いとう

議会だよりは年4回発行

議会だより編集委員会

議長 神原淑友
委員 片岡 健
副委員長 中根 幸男
委員 吉筋 恵治
委員 小澤 哲夫
委員 伊藤 和子